

令和5年度広島県特別支援学校教育研究大会実施報告

1 趣旨

障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、学習上又は生活上の困難を改善・克服するため、適切な指導や支援を行えるよう専門性の向上を図り、今後の特別支援教育の一層の充実を図る。

2 日時

令和5年12月26日（火）12：45～16：30

3 会場

広島大学サタケメモリアルホール
(東広島市鏡山一丁目2番2号)

4 参加者

広島県特別支援学校教育研究会会員（会員数1,019名）参加330名
広島県内小・中学校教員及び広島大学学生 参加42名

5 研究主題

自立と社会参加に向けた個別最適な学びと協働的な学び

6 研究発表

発表順	グループ	研究発表校	研究テーマ
1	視覚障害・聴覚障害	呉南特別支援学校	幼児児童生徒の「考え、判断し、やり抜く」力を高める授業づくり～教員一人一人の課題解決に向けた小さな挑戦を通して～
2	肢体不自由・病弱	広島西特別支援学校	個別最適な学びと協働的な学びを目指した取組～自立活動の授業改善とICTの活用を通して～
3	知的障害Ⅰ	広島北特別支援学校	主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善から教育課程の改善への取組
4	知的障害Ⅱ	福山北特別支援学校	学習指導要領に基づく授業改善及びカリキュラム・マネジメント～単元（題材）計画及び指導略案を活用した学習評価に焦点を当てて（3年次）～

7 講演

演題 初等中等教育の動向と学習指導要領の着実な実施
～学びの質を高めるカリキュラム・マネジメント～

講師 文部科学省初等中等教育局 視学官 菅野 和彦 氏

8 当日の様子 受付



研究発表



9 アンケートの結果 (抜粋)

大会の時期や日程、開催方法は適切だったか

適切だった 83%

大会の運営は適切だったか

適切だった 90.6%

研究発表で特に参考になったこと

研究に入る前の出発点として学校現場で行う研究について押さえたうえで、学校が行う研究の方向性を定め、研究が目指すところを教員が共有されていたことが素晴らしいと思った。ステップを細かくつけられていたところもわかりやすくよかった。

家庭や学校にしながら就業体験のできるプログラムが新鮮だった。ICT活用への理解と地域社会とのつながりが重要であると感じた。外出の難しい人が、自分の人生の選択肢を広げることができる良い取組だと感じた。

講演で特に参考になったこと

法令、学習指導要領をもとにした、カリキュラムマネジメントについて考えることができた。自校のカリキュラムマネジメント、教育活動を反省し、改善していきたいと思う。

個別の指導計画が各教科と自立活動で目標や内容の設定に至る手続きに違いがあることを意識していなかったため、今後の実践で、周りにも伝えながら考えていきたいと思う。

学習指導要領をただ眺めているだけでは分からないことを教えていただいた。学習指導要領の文言から、この言葉は実際の現場でどのような意味をもつのかを知ることができた。

ICT 機器紹介コーナー



開会行事



講演

